

校番	201・125	学校名	広島中学校・広島高等学校	校長氏名	榑原 恒雄	全日制課程	本校
----	---------	-----	--------------	------	-------	-------	----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

全人教育を実現し、本県教育を先導する学校

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

挑戦し続ける生徒・学校:学んでよかったと思える学校

- ①知性・感性・意志のバランスがとれた生徒を育成する学校 ～ 全人教育を実現する学校～
- 【高い知性】学校は学びの場 ～ 深い知識・技能を持ち、批判的思考力や豊かな創造力を求め、学び続ける生徒の育成
- 【豊かな感性】学校は自らを広げ深める場 ～ 他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し協働できる生徒の育成
- 【強い意志】学校は自らを高める場 ～ 高い志を持ち、主体的に学び行動する生徒の育成
- ②果敢に挑戦し続ける生徒・学校 ～ 全生徒の進路希望を実現する学校～
- ③全教職員の資質・能力向上を推進する学校 ～ 人材育成プログラムが機能している学校～

3 環境分析

①知性・感性・意志のバランスがとれた生徒を育成する学校 ～ 全人教育を実現する学校～

【高い知性】学校は学びの場 ～ 深い知識・技能を持ち、批判的思考力や豊かな創造力を求め、学び続ける生徒の育成

《生徒が主体的に学ぼうとしている》平成 27 年度授業満足度調査では、授業評価について、肯定的な回答をした生徒の割合が、中学校 94.5%、高等学校 91.0%、校内全体で 92.4%と目標値(90%)を上回ることができた。しかし、生徒の自己評価については、中学校 89.0%、高等学校 86.8%、校内全体で 87.7%と、授業評価と差が生じている。“授業改善”をすすめ、生徒の「主体的な学び」を促す工夫を行い、生徒の努力を成果として実感できる授業内容・評価の在り方を、各教科において研究していく必要がある。

《SGH・ESDで持続可能な社会づくりの担い手として批判的思考力を身に付け、新たな価値を創造しようとしている》平成 27 年度授業満足度調査における「論理的思考力・表現力」に関する質問項目の平均値は、中1:95.2%、中2:97.1%、中3:92.6%、高1:90.6%、高2:90.0%、高3文:95.1%、高3理:92.9%であり、前年度の目標値を上回ることができた。また、同窓生アンケートで、本校の「ことば科」「卒業研究」について、役に立っていると感じている卒業生は、それぞれ、96%、86%であり、大学のレポートやディスカッションなどのグループワーク、授業で役に立っていると実感しているようである。SGH及びユネスコスクールとして中学校の「ことば科」と、高等学校の「総合的な学習の時間」の連携を強化し、新たな価値を創造する生徒の育成を目指していく必要がある。

【豊かな感性】学校は自らを広げ深める場 ～ 他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し、協働できる生徒の育成

《リーダーを中心とした主体的な活動を通して、互いのよさを認め、協働できている》中学校では、遠足、清掃、生徒会活動等において、中3生を各グループのリーダーとした縦割り活動を取り入れている。中3生は、リーダーとしての自覚や責任を持たせ、中1・2生の手本として活動できるように生徒会執行部を中心にリーダー会や各行事の打ち合わせ会を随時行っている。高校では、生徒会執行部、各行事の実行委員会の生徒たちが主体的に活動できる力を育むことを目標として取り組んでいる。各行事の新しい企画や生徒のより良い生活など生徒たちの自主的な声をしっかり聞くことから始めている。少しずつではあるが、県広のよき伝統を積み上げたいという思いを表現する姿が見られている。昨年度の学校行事全体における満足度は、肯定的な回答の割合が96.2%であり、目標を達成した。文化祭 93.4%、運動会 99%と目標数値を大幅に上回る数値が出ている。新たな歴史を築き、積み上げる次のステージに入っており、生徒会の執行部や各委員会や実行委員会の自主的な活動を尊重して行ったことで高い数値となったと考えられる。

《寄宿舎で、他者を思いやり、協働して運営している》集団生活において、他者を思いやり、協働して自治活動を行うことは、寄宿舎の安心安全な生活の基盤となる。これまで、「寄宿舎の活動を自主的に運営しているか」との問いに、例年 95%前後の高い数値を示してきたが他者を思いやりという点においては十分とはいえない。グローバル化社会において他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し協働できる生徒の育成において最適であると考え、寄宿舎生活の全般を有効活用していく。

【強い意志】学校は自らを高める場 ～ 高い志を持ち、主体的に学び、行動する生徒の育成

《生徒が心身の自己管理ができている》学校保健に関する平成 27 年度アンケート調査では、「日頃から、自らの心と体の健康に注意を払いながら

生活している」と回答した生徒が93.0%(前年度90.9%)となり、90%以上を継続している。また、「学校に学習や生活等について、相談できる相手がいる」と回答した生徒は、95.3%(前年度 94.5%)でこの3年間で最も高くなった。「学校に学習や生活等について、相談できる先生がいる」と回答した生徒は 73.3%(前年度 73.7%)となり、ほぼ昨年並みである。健康管理の取組の一つとして保健だよりによる保健指導を平成 27 年度も行った。「保健だよりが自己の健康管理に役立った」と回答した生徒が、前年度の 84.3%から 86.5%になった。今後も生徒の健康管理の啓発に有効活用していく必要がある。

《SGHとして、グローバル化社会における志を高め、素養(英語力等)を身に付けている》平成 27 年度の高1学年の英語検定取得状況は、240名中192名が準2級以上を取得することができた。うち、80名が2級以上を取得し、目標値を大きく上回った。SGHにおける海外研修をはじめとする事業で、留学生等との交流の場面では、英検2級を取得していることが望ましい。高2においては、グローバルコース生徒は全員が英検2級以上取得を目標に生徒へ働きかけ、保護者への啓発も必要である。

《生徒が「けんひろマナー5か条」に基づき、主体的に決断し実行できる》あいさつや儀式的行事の態度に関する生徒の自己評価結果は、肯定的回答の割合が92.5%であった。前年に引き続き日常的な取組を行ってきた成果であると考えられる。しかし、登下校路やJRの利用のマナーについては、地域から指摘を受けることもあり、具体的な行動について、委員会を通じた「けんひろマナー5か条」の活用を進めていく必要があると考える。また、自律的な生活態度を身に付けていると自覚している生徒の割合は、前年度98.4%で目標値をクリアした。しかし、教職員の期待値は76.7%と生徒の自己評価とは大きなずれがある。平成27年度は、部活動生徒を中心とした「あいさつ運動」を3回(3週間)、風紀委員による「遅刻防止週間」を3回(3週間)実施し、生徒の主体的な活動を取り入れながら、遅刻防止に関する啓発を行った。

②果敢に挑戦し続ける生徒・学校 ～ 全生徒の進路希望を実現する学校～

《生徒の高い志望が維持されている》平成27年度高3生のTKI志望者数は、高1年次(1月)⇒2年次(1月)⇒3年次(11月/受験)として、東大8⇒13⇒9/受験4名、京大27⇒24⇒21/受験10名、医学科14⇒17⇒14/受験9名と推移し、TKI全体の維持率は89.8%であった。更に、難関大学以上の志望者数は97⇒115⇒96/受験56名、SGU等(広大以上)志願者数は179⇒186⇒164/受験117名と推移し、維持率はそれぞれ99%、91.6%であった。実受験者数はセンター試験の結果により変動することやむを得ないが、模試段階の志望は維持されていると考えられる。したがって、本校で行ってきた高い志望を維持させる取組は一定の成果を出していることから、低学年次からの、より多くのTKI志望者を増やす早々の取組が必要である。

《生徒の学力が向上している》第1回から第3回の実力テストにおける平均偏差値の推移が中1では57.1⇒58.2⇒59.1、中2では59.5⇒59.8⇒60.4と推移した。中3では、第1回から第2回において、60.3⇒58.9となった。中1、中2ともに回数を追うごとに向上した。中3では低下する結果となった。偏差値60以上の生徒は中1で64人、中2で76人、中3で76人となり、中2は目標を達成し、中1・中3では目標を下回る結果となった。中3の目標である80人以上の達成ができない状況が続いている。目標達成に向けた取組が必要である。高校1年の初期指導として、授業の受け方、予習や復習方法を含めた家庭学習の仕方、課題の取組方法等を重点的に指導した。また高い志望を持たせるため、SGU集会、短期入寮(学習合宿)、ハイレベル講座等を計画的に実施した結果、1月進研実力テストで、国数英総合偏差値65以上の人数が111人であった。一方で50未満の人数は21人おり、引き続き目標達成に向けた取組が必要である。高校2年では、高1の時から課題を徹底的に提出させる取組や、考査や小テストの放課後の追試験・追指導の取組を通じて、偏差値50未満の生徒は減少し、目標を達成することができた。また、成績上位層には修学旅行前から最難関大集会、旅行後にはTKIの指導を前倒して開始するなど受験を意識した早期の取組を継続している。偏差値65以上の上位層も目標を達成した。今後も、下位層へは丁寧な指導、上位層へは早期からの計画的な指導を継続する必要がある。

《SGU等合格者数が高い水準を達成している》平成28年度入試において東京大学3名、京都大学5名、国公立大学医学部医学科3名と最難関大学10名以上の合格を達成した。これらを含めた難関国立大学は35名(昨年44名)、広島大学は46名(昨年47名)により、SGU(難関国公立大学)等合格者数は79名(昨年90名)であった。広島大学合格者数40名以上は達成したもののSGU等合格者数は昨年を9名下回った。最上位層を支える態勢はある程度仕上がったと考えられるが、その次の学力層を伸ばす手立てや出願時に志望校を下げないための取組が必要である。

③全教職員の資質・能力向上を推進する学校 ～ 人材育成プログラムが機能している学校～

《教職員が「学びの変革」に向けた授業力向上に組織的に取り組んでいる》平成27年度授業満足度調査の授業評価「全体的に授業に満足している」という問いに対して肯定的回答をした生徒の割合は中学校94.5%、高等学校91.0%と目標を上回った。また、特に高い評価をした生徒の割合は中学校57.9%、高等学校52.0%と目標を大きく上回った。このことは、「主体的な学びを促す高い水準の授業づくり」に係る各教科の組織的な取組が効果的であったからだと考える。多くの教科で授業展開に工夫や改善がなされており、高い授業評価を維持すべく、今後とも「主体的な学びを促す高い水準の授業づくり」を組織的に推進していく。そのために、教科主任会議を軸に各教科や中高接続の連携をさらに密にし、定例化した教科会の中で教科の特性に応じた具体的な授業展開の工夫を共有し、ベテランの授業の知恵を若手が学ぶ等の協働的な取組をさらに進める必要がある。

《教職員が学校活性化(業務改善)に向け組織的に取り組んでいる》平成27年度の業務改善に係るアンケート(第3回)結果によると、「生徒と向き合う時間が確保できている」と感じる教職員の割合が、中学校では56.3%、高等学校では56.2%という結果であった。広島県教育委員会では同割合を平成29年度末までに80%以上とすることを成果指標・目標値としている。そこで「各学校で策定した業務改善の取組計画に学校全体で取り組んでいる」と感じる教職員の割合が中学校では88.2%、高等学校では67.4%という結果であった。業務改善を学校活性化によって教育の質を向上させ、また「学びの変革」を円滑に推進するための環境づくりと位置づけた取組が喫緊の課題である。

4 目標の設定

学校経営目標		※ 評価結果・アンケート結果は肯定的な評価を%で示し、 その中で特に高い評価を < > で示す。					担当部 等
達成目標	評価指標	実績値		目標値			
		平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	
①知性・感性・意志のバランスがとれた生徒を育成する学校 ～ 全人教育を実現する学校～							
【高い知性】学校は学びの場 ～ 深い知識・技能を持ち、批判的思考力や豊かな創造力を求め、学び続ける生徒の育成							
生徒が主体的に学ぼうとしている (自律的な学習態度) (批判的な思考力等の育成)	授業満足度調査結果 (自己評価) (主体的に学ぶ生徒の育成)	87.6%	87.7%	90%	90%	90%以上	教務
	図書館の貸し出し冊数 (1人当たり平均値)	9.9冊	10.5冊	10冊	10冊	10冊以上	

	中学校生徒学習時間調査結果(学年目標達成率)	課業日 93% 休業日 92%	課業日 91.0% 休業日 91.7%	課業日 90% 休業日 90%	課業日 90% 休業日 90%	90%以上	中1 ～ 中3
SGH・ESD で持続可能な社会づくりの担い手として批判的思考力や論理的思考力・表現力を身に付け、新たな価値を創造しようとしている	授業満足度調査結果 卒業生へのインタビュー (ことば科及び卒業研究の内容)	—	—	85%	90%	90%以上	研究 推進 教科
【豊かな感性】 学校は自らを広げ深める場 ～ 他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し協働できる生徒の育成							
リーダーを中心とした主体的な活動を通して、互いのよさを認め、協働できている	行事での生徒、教職員、来校者アンケート調査結果	97.8%	96.2%	90%以上	90%以上	90%以上	生徒 指導
寄宿舎で、他者を思いやり、協働して運営している	寄宿舎生徒アンケート調査結果	—	—	85%	88%	90%以上	舎務
【強い意志】 学校は自らを高める場 ～ 高い志を持ち、主体的に学び行動する生徒の育成							
生徒が心身の自己管理ができている (自律的な生活態度)	生徒の心身の自己管理と教育相談に関するアンケート調査結果	90.9%	93%	90%以上	90%以上	90%以上	保健 生徒 指導
	年間皆勤賞生徒人数の割合	中 38.4% 高 26.5%	中 33.3% 高 30.8%	中高 33%以上	中高 33%以上	中高 33%以上	保健 体育
SGH として、グローバル化社会に対する志を高め、素養(英語力等)を身に付けている	生徒アンケート調査結果 (将来留学や、仕事で国際的に活躍したいと考える人数の割合)	高1高2 の 51%	高1 67.7% 高2 65.3% 高3 68.1%	高1 全員 60%以上 高2Gコース 70%以上	高1 全員 65%以上 高2Gコース 80%以上	高1 全員 70%以上 高2Gコース 90%以上	SGH 委 高1 高2
	英語検定の合格人数の割合	中3 準2級以上 36人 3級以上 139人	中3 準2級以上 66人 3級以上 153人 (158人中) 96.8%	中3 準2級以上 30%以上 3級以上 100%	中3 準2級以上 35%以上 3級以上 100%	中3 準2級以上 40%以上 3級以上 100%	進路 指導 英語
		高1 準2級以上 58% 2級以上 15%	高1 準2級以上 80% 2級以上 33% 高2 2級以上 43%	高1 準2級以上 80% 2級以上 33% 高2 2級以上 45%	高1 準2級以上 80% 2級以上 33% 高2 2級以上 50%	高1 準2級以上 80%以上 2級以上 33%以上 高2 2級以上 50%以上	高1 高2 英語
生徒が「けんひろマナー5カ条」に基づき、主体的に決断し実行できる	1・2学期末での生徒、教職員、アンケート調査結果	—	—	80%以上	85%以上	90%以上	生徒 指導
②果敢に挑戦し続ける生徒・学校 ～ 全生徒の進路希望を実現する学校～							
生徒の高い志望が維持されている	第3回全国模試志望校維持人数の割合(学年の最終の模擬試験)	—	—	90%以上	90%以上	90%以上	進路 指導 高1 ～ 高3
生徒の学力が向上している	中学校第2回実力テスト結果 全国偏差値 60 以上人数	中1 71人 中2 76人 中3 67人	中1 64人 中2 76人 中3 76人	中1 65人 中2 75人 中3 80人以上	中1 70人 中2 75人 中3 80人以上	中1 70人 中2 75人 中3 80人以上	進路 指導 中1 ～ 中3

	高校第3回全国模試偏差値 (学年の最終記述模試)	SS 65 以上 高1 91 人 高2 96 人 SS50 未満 高1 15 人 高2 13 人	SS65 以上 高1 111 人 高2 94 人 SS50 未満 高1 22 人 高2 11 人	高1・2生 徒の人数 SS75 以上 25 人 50 未満 20 人	高1・2生 徒の人数 SS75 以上 25 人 50 未満 20 人	高1・2生 徒の人数 SS75 以上 25 人 50 未満 20 人	進路 指導 高1 高2
SGU等合格者が高い水準を達成している	SGU等(医学部医学科を含む)国公立大学合格者数	難関大等 90 名 (最難関大 10 名、広 島大 47 名 を含む)	難関大等 79 名 (最難関大 11 名、広 島大 46 名 を含む)	90 名以上 (最難関 大 10 名以 上、広島 大 45 名以 上を含む)	95 名以上 (最難関 大 15 名以 上、広島 大 45 名以 上を含む)	110 名以上 (最難関 大 20 名以 上、広島 大 50 名以 上を含む)	進路 指導 高3

③全教職員の資質・能力向上を推進する学校 ～人材育成プログラムが機能している学校～

教職員が「学びの革新」に向けた授業力向上に組織的に取り組んでいる	授業満足度調査結果 (授業評価) 〈「そう思う」回答〉	91.4% 〈51.7%〉	92.4% 〈55.2〉	90% 〈45%〉	90% 〈50%〉	90%以上 〈50%以上〉	指導 教諭 教務 教科主任 会 校務 運営 管理職
教職員が学校活性化(業務改善)に向け組織的に取り組んでいる	教職員アンケート結果	—	—	80%	85%	90%以上	

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
①知性・感性・意志のバランスがとれた生徒を育成する学校 ～ 全人教育を実現する学校～			
【高い知性】学校は学びの場 ～ 深い知識・技能を持ち、批判的思考力や豊かな創造力を求め、学び続ける生徒の育成			
生徒が主体的に学ぼうとしている (自律的な学習態度) (批判的な思考力等の育成)	主体的な学びを推進するため、授業目標を明確にし、授業に対する自己評価を上げていく取組を行う。生徒が発問について探究し、学んだ成果を実感できる授業スタイルや、生徒自身に目標設定させ、自律した学習者を育成すること等により、知的好奇心を刺激する。第1学期末に生徒に対するアンケート等を実施し、第2学期に向けた分析を行い、授業改善を図る。	教科主任会議で「主体的な学び」を促す「高い水準の授業づくり」の推進に組織的に取り組むとともに、各教科のきめ細かな指導を徹底させるため、生徒に対してアンケート調査等を実施し、教科会において授業改善に向けた分析を行う。	教務
	批判的思考力等を育てるため、 図書館の貸し出し冊数の目標値を10冊とし、中1は15冊、中2は12冊、中3は10冊、高1は8冊とする。 図書委員会活動の活性化を図り、図書だよりの発行、本に親しませる取組、読書状況データ公表等の従来からの活動を充実させる。また、教職員による書評集「県広生の99冊」を活用した啓発を行う。	批判的思考力等を育てるため、「時を越えて読み継ぐ本」「西岡文庫」「矢原文庫」を核に、中学校・高等学校の間に読んでおくのが望ましい図書として、教職員による書評集「県広生の99冊」(初版)を活用する。	
	主体的に学ぶ生徒を育成するためには、自律した家庭学習習慣を確立する必要がある。中学校第1・2学年は、家庭学習時間の目標値を課業日1.5時間、休業日2.0時間以上と設定する。また、中学校第3学年は、課業日2.0時間、休業日3.0時間以上と設定する。年間5回の調査を実施し、学級担任や教科担当者の指導に生かしていく。	各学年で設定した家庭学習時間を確保しながら、授業とのリンクを図ることで、生徒に主体的に学びを促進させる。その際、各教科における課題のあり方などについても、各教科部会で検討するなどして、家庭学習の質を高めていく。	中1 ～ 中3
SGH・ESDで持続可能な社会づくりの担い手として批判的思考力や論理的思考力・表現力を身に付け、新たな価値を創造しようとしている	SGH及びユネスコスクールとしてESDを推進する。生徒が「中・ことば科」、「高・総合的な学習の時間」において、「批判的思考力」、「論理的思考力・表現力」に係る学習活動で、それらの力が高まったと実感できるような教材の工夫や、場の設定をしていく。また、学年間や校種間の連携を深め、つながりを意識しながら学習指導及び研修を進めていく。	SGH及びユネスコスクールとして、ESDを推進する。授業等で身に付けた「批判的思考力」、「論理的な思考力・表現力」を活用して、ことば科や卒業研究に係る総合的な学習の時間を中心に、「持続可能な社会づくり」に係る取組を校内外に発信する。	研究推進 教科

【豊かな感性】学校は自らを広げ深める場 ～ 他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し協働できる生徒の育成			
リーダーを中心とした主体的な活動を通して、互いのよさを認め、協働できている	生徒会役員会及び専門委員会の連携を密にし、各行事において、行事の計画・準備段階で委員会担当者と学年担当者による合同会議を実施する。また、中学校では、さらに縦割り活動の内容を充実させる。	生徒が学校行事において、主体的に企画・運営・参加できるようにする。中学校では、縦割り活動の充実を図る。	生徒指導
寄宿舎で、他者を思いやり、協働して運営している	寄宿舎生徒委員会を各学期3回以上開催する。機会あるごとに、自治活動の主体的な参画を促すとともに、他者に対する思いやりのある行動について啓発する。	集団生活において自治活動の重要性を理解させながら、他者を思いやり協働的な活動ができるよう啓発活動を行う。状況を細かく把握するために、各委員会活動の活動状況報告書を作成させ、状況を確認し改善を図る。	舎務
【強い意志】学校は自らを高める場 ～ 高い志を持ち、主体的に学び行動する生徒の育成			
生徒が心身の自己管理ができています (自律的な生活態度)	保健だよりや学級活動等を利用して、心と体の健康管理を働きかける。生徒の心身の健康管理を支援するため、職員研修と委員会活動等を充実させる。	心身の健康に関する特別活動を行い、生徒の健康管理を支援するとともに、職員研修等を通じて、生徒の心身の健康保持支援のための力量をより一層身につける。	保健 生徒指導
	生徒会及び風紀委員会に働きかけて、各学期に1回ずつ遅刻防止期間を設けて啓発活動を行う。	生徒会及び風紀委員会に働きかけて、自律的な生活態度を身に付けていくための各種の啓発活動を行う。	保健体育
SGHとして、グローバル化社会における志を高め、素養(英語力等)を身に付けている	教職員に対して本校SGHの構想・目標について理解を求めため、研修会を行う。生徒がグローバル人材に必要な素養を理解し、その素養を身に付けようとする態度を育てるため、効果的な講演会、課題研究を実施する。	教職員・生徒がグローバル人材に必要な素養について理解し、生徒が課題意識や当事者意識を持って、「持続可能な社会の構築」に貢献したいと考えるよう促す。	SGH委員会 高1 高2
	SGHとして、英語力を高めるために、英語科と連携し、学期の始めと終わりに、受験状況や取得級の把握を行い、受験に対する意欲喚起、目標設定や受験期日・方法のアドバイス等を継続して行う	SGHとして、英語力を高めるために、英語科と連携し、学期の始めと終わりに、受験状況や取得級の把握を行い、受験に対する意欲喚起、目標設定や受験期日・方法のアドバイス等を継続して行う。	進路指導 英語科
	高1の英語検定取得においては、SGHにおける海外研修をはじめとする事業の参加要件として、英検準2または2級を取得していることを必須とし、高2グローバルコースにおいては、全員が英検2級以上取得を目標に生徒へ働きかけ、保護者への啓発も行う。	SGU入学を目指すには、英語検定取得が有利である。SGH事業の参加要件として、高1は英検準2級以上、高2のグローバルコース生徒は2級以上を取得することを目標とし、学年会と英語科が連携し、受験を促す。	高1 高2 英語
生徒が「けんひろマナー5カ条」に基づき、主体的に決断し実行できる	生徒会役員会及び部活動部員を中心とした朝のあいさつ運動を定期的実施する。生徒主体の活動の趣旨を理解させながら、生徒の規範意識の向上に向け、計画的に実施する。「けんひろマナー5カ条」を周知し、実動する体制をつくり、各種の啓発活動を行う。	生徒会執行部と各委員会が連携する組織的な生徒会活動の趣旨を理解させ、教育活動全体を通して、積極的な挨拶や自律的な生活態度を身に付けさせる各種の啓発活動を行う。	生徒指導
②果敢に挑戦し続ける生徒・学校 ～ 全生徒の進路希望を実現する学校～			
生徒の高い志望が維持されている	生徒の進路意識の向上を図りつつ、高い進路目標を設定し持続できるように、集会や進路行事、面談等を継続的に実施する。保護者に向けた情報提供も行う。特に、アドバンスクラスやグローバルコースに在籍する生徒には、SGUの中でも最難関、難関のレベルを目指すために、SGU集会を定期的実施する。2年後半からのTKI指導を教科面・メンタル面の支えであると意識し、高い志望を貫けるよう指導する。	生徒の進路意識の向上を図りつつ、高い進路目標を設定し持続できるように、集会や進路行事、面談等を継続的に実施する。保護者に向けた情報提供も行う。グローバルコースに在籍する生徒にはSGUの中でも最難関、難関のレベルを目指すために、SGU集会を定期的実施する。TKI指導を教科面・メンタル面の支えであると意識し、高い志望を貫けるよう指導する。	進路指導 高1 ～ 高3

生徒の学力が向上している	<p>実力テストを年間3回実施し、結果を分析して生徒の学習の状況や課題を明らかにする。分析を基に課題を共有し、学年や教科の指導の改善を図る。事前、事後の取組を充実させ、課題の克服に努める。</p> <p>年間3回実施する実力テストについて、生徒の学力伸長状況を把握する。その結果をもとにした個別指導(短期入室、長期休業講座等)を行い、偏差値 60 以上の生徒を第1学年 65 人以上、第2学年 70 人以上、第3学年 80 人以上にする。</p>	<p>実力テストを年間3回実施し、結果を分析して生徒の学習習慣や確かな学力を身に付けさせるための課題を明らかにする。課題を克服させるために、学年や教科の指導の改善を図る。実力テスト・特別講座・学力補充・個人面談等を組織的に実施する。</p> <p>年間3回実施する実力テストについて、生徒の学力伸長状況を把握する。その結果をもとにした個別指導を行い、偏差値 60 以上の生徒を第1学年 70 人以上、第2学年 70 人以上、第3学年 80 人以上にする。</p>	<p>進路指導</p> <p>中1 ～ 中3</p>
	<p>SGH の取組と並行して、担任等による面接指導や個別指導を通して、教科バランスを意識した学習時間を増やす指導や個々の精神面でのフォローをしていく。特に、高2では英語・数学・国語の基礎力の完成や、理科、地歴・公民の自主的な学習の開始を意識させる。また、進路に関わる意識や情報を共有させることを通して連帯感を深め、集団としてより高い目標を目指す集団作りを進めるとともに、進路実現に向かう生徒個々の学習意欲の向上を図る。</p> <p>成績上位者に対しては、圧倒的な基礎・基本を土台とした上で応用力の育成に取り組むとともに高い志望をもたせる。成績不振者へは早朝・放課後等を利用し、成績不振者への対応を引き続き継続的・組織的に行う。</p>	<p>年間3回実施する実力テストについて、生徒の学力伸長状況を把握し、その結果をもとに個人面談等を行い、自律した学習者となるように育てる。また、計画的に領域別集会等を実施し、進路に関わる意識や情報を共有させることを通して連帯感を深め、集団としてより高い目標を目指す集団作りを進めるとともに、進路実現に向かう生徒個々の学習意欲の向上を図る。</p>	<p>進路指導</p> <p>高1 高2</p>
SGU等合格者が高い水準を達成している	<p>実力テスト分析会を年3回実施し、学年・教科と連携しながら、指導の充実を図る。またTKI指導に関する担当者会議を実施し、組織的に高い志望の実現に向け、教科面及びメンタル面で生徒を支援する。</p> <p>SGU等集会を高1では年間1回以上、高2では年間2回以上実施する。高3では、SGU等志望者に対する教科担任面接を3回、進路検討会議を3回以上実施する。SGU等(医学部医学科を含む)国公立大学合格者を90名以上(最難関大10名以上、広島大合格者を45名以上を含む)にする。</p>	<p>実力テスト分析会を年3回実施し、生徒の学力伸長状況を客観的に把握し、SGU等(医学部医学科を含む)国公立大学合格者110名以上(広島大学50名以上、最難関大学20名以上を含む)となるように、学年・教科と連携しながら、指導の充実を図る。入試結果を総括し、進路指導体制、データ分析体制、学習指導体制を組織的に見直すことにより、目標を達成する。</p> <p>高1・2ではSGU等集会を実施して、進路意識を高め、高3では、SGU等志望者に対する教科担任面接や進路検討会議を実施することにより、目標を達成する。</p>	<p>進路指導</p> <p>高3</p>
<p>③全教職員の資質・能力向上を推進する学校 ～人材育成プログラムが機能している学校～</p>			
教職員が「学びの变革」に向けた授業力向上に組織的に取り組んでいる	<p>引き続き1名あたり年間平均8時間以上の授業参観を実施する。授業改善に向けて、教科主任会議を中心に主体的かつ具体的な改善策の取組を進め、その成果と課題を検証する。定例化した教科会で、生徒の実態把握や指導方法等の共有を進める。また、各教科の特性に応じた具体的な授業展開を教科内で共有する。</p>	<p>各教科が研究テーマを中心に、授業参観や授業づくりに係る研修等を実施し、「主体的な学びを促す高い水準の授業づくりを進める。このために生徒を対象に実施する授業満足度調査結果や、グループインタビューのデータを活用し、数値に表れない実態を把握するとともに、個別の指導に役立てる。</p>	<p>指導教諭 教務 教科主任会</p>
教職員が学校活性化(業務改善)に向け組織的に取り組んでいる	<p>主任が、各分掌業務の見直しを分掌会で検討するとともに、見直しを持った校務運営を行う。教務事務支援員の業務内容の周知と業務依頼方法の簡略化を行う。諸業務のデジタル化を検討する。取組計画による改善策を、校務運営会議で共有する。</p>	<p>校務運営会議や主任を中心に、学校活性化(業務改善)に向け、見直しを持った業務遂行の徹底を行う。教務事務支援員の更なる活用により、印刷の効率化を徹底する。指導要録のデジタル化を検討する。取組計画による改善策を、全教職員一体となって実施し、子供と向き合う時間の確保に向け実効性のあるものとしていく。</p>	<p>校務運営 管理職</p>